

利用学習計画書

平成24年5月15日

担当 第6学年 佐藤 成実
菌部奈緒美

1 ねらい

- ・旧石器時代の仙台市近辺の自然の様子や石器時代の人々の暮らし方を知る。
- ・石器作りの体験を通して古代人の技術や知恵を実感し、歴史学習への関心を高める。

2 評価

石器時代の人々の暮らし方が理解できたか。(観察・ノート)

3 学習活動について

社会科6学年 単元名「縄文のむらから古墳のくに」

小学校の歴史学習は主に縄文時代からであるが、土器以外にも発掘される様々な石器から、縄文時代と重なる当時の生活の様子を想像したり、食べることが最大の課題であった暮らしについて考えさせたりする上で、地底の森ミュージアムの展示や体験学習は有効であると考え、今回の学習活動を設定した。

4 事前指導

学習内容について

- ・発掘された様々な石器の形状や用途、材料について考え、自分の考えを持たせた。
 - ・農耕が始まる以前の人類の食料について考え、資料から考えさせる活動をしてきた。
- 見学の仕方・体験学習について
- ・展示品の見方、ノートへの記入の仕方、記入するときの生活科バッグの使い方等
 - ・体験学習時の服装、作業内容について

5 当日の指導(活動)内容

- (1) 見学学習
 - ・地下展示室解説付き見学
 - ・1階展示室自由見学
- (2) 体験学習
 - ・石器作り

6 事後指導

資料を作成し、発表会を行う。

利用学習報告書

平成25年1月24日

担当 第6学年 佐藤 成実

1 事後指導について

(1) 実施日

平成24年5月17日(木) 3・4校時

(2) 主な内容

- ・社会科歴史の授業、「縄文のむらから古墳のくにへ」単元の学習はほぼ終了していたので、まとめの体験学習として貴施設を利用した。
- ・一人一人が記入した学習の手引きのノートや、当日教師が撮影したデジカメ画像を見ながら分かったこと、疑問に思ったことなどを発表し合い話合いを持った。
- ・事前には石器時代について、学校にある遺物模型を見る程度であまり詳しく学習はしていなかったため、土器を作れるようになる以前の時代であることと、およそ2万年前ぐらいの時代であることを学習した。
- ・昨日の校外学習の振り返りが終了した後、各自まとめの新聞作りに取り組んだ。

2 送付する資料(データ)

(1) 児童の学習後の感想(6名分)

(2) 教師の感想(2名分)

(3) 児童の作成資料のデータ(JPEG画像14枚分)

(1) 児童の学習後の感想 (6名分)

- ・ 竪穴式住居は木できていて、穴が中にほられていて、中はとても広く薄暗かった。また、中は涼しかった。
- ・ 勾玉を丸くするところがとても難しかった。手が疲れて大変だったけど、完成したときはうれしかった。
- ・ 石器時代の人たちがやりや石器を自分たちで作っていたなんてびっくりした。石器時代の人たちは一生懸命道具を作って暮らしていたのだなと思った。
- ・ 竪穴式住居に実際に入ってみました。中は結構暗くて、意外と広かったのでびっくりしました。竪穴式住居の周りの木なども調べたりしました。その後に、中の縄文土器なども見学しました。その後に、勾玉を作りました。ブロックで石をけずって丸くしてワックスを塗ってできあがりです。思っていたよりも大変でした。丸くするのが特に大変な作業で、これも係の方や先生に手伝ってもらいました。そのおかげで上手にでき、とても楽しかったです。
- ・ 縄文の森で竪穴住居の中に入りました。中に入るとせまくてすずしいので、夏はいいけど冬は大変だったのではないかと思いました。竪穴住居は木できています。木はくりの木できています。とてもつるつるしていました。縄文時代の人砂の上で、寒い思いをして寝ていたのかなと思いました。
- ・ 地底の森ミュージアムで初めて分かったことが3つあります。1つ目は2万年前の地層の深さです。それは5メートルよりも下でした。ちなみに2万年前は旧石器時代と呼ばれているそうです。2つ目は、2万年前に富沢に来た旧石器人たちが残していったものです。それはやりの先に使うナイフ型の石器でした。3つ目は木についてです。今はなくなってしまったトミザワトウヒという樹木があります。その木に1番似ていて今も生きている木はアカエゾマツという木だそうです。

(2) 教師の感想 (2名分)

【縄文の森広場】

縄文時代のムラの様子が再現されており、子どもたちは興味を持って学習に取り組んでいた。中でも復元された竪穴住居は、実際に入ってみることで広さや外との温度の違いなどを、自分の肌で感じることができ、貴重な体験となっていたようだ。また、歴史の学習の始まりの部分で体験ができたので、ここから歴史に強く興味を持つ子どもがたくさん増えたようだった。

実際に手で触れることができる展示が多く、子どもたちはふれることによって縄文時代に思いを馳せることができていたと感じた。勾玉作り体験は簡単そうに見えて結構難しく、6年生児童にはちょうどよい課題だった。

【地底の森ミュージアム】

富沢遺跡の発掘後を見る活動では、ガイドさんの話を聞きながらの見学だったので、わかりやすかった。子どもたちも2万年前のたき火あとが見られることは大変貴重なことだというのが徐々に分かっていったようで、感心しながら見学する様子うかがえた。石器作り体験では、旧石器時代の人々が自分たちで石器を作っていたことにまず驚いたようだった。また、実際に自分の手で石器を作ってみると、思ったような形にならず苦勞していた。この経験を通して、道具作りから狩猟までを行っていた2万年前の生活の大変さを実感できたようだ。

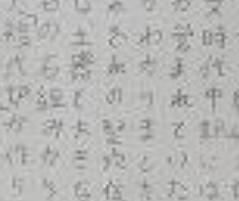
地下の富沢遺跡の貴重さ・重要さは、施設の規模や専門性から児童も十分に理解し、真摯な態度で見学していたと感じた。農耕が始まる前の人間の生活についても、ビデオのおかげで実感を伴って理解していたようであった。地下遺跡以外の展示についても児童の興味を惹き、考えさせるには十分な内容だと感じた。石器時代の植物や、気候について詳しく学習する時間をとれば、いっそう深い理解と新たな興味が湧いてくると感じたが、時間が取れず残念であった。

縄文☆地底新聞

縄文の森に行きました。縄文の森に行くと、縄文時代の生活が感じられます。縄文時代の生活は、自然と共生していました。縄文時代の生活は、自然と共生していました。縄文時代の生活は、自然と共生していました。



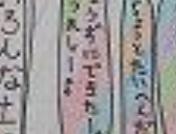


縄文☆地底新聞

縄文の森に行きました。縄文の森に行くと、縄文時代の生活が感じられます。縄文時代の生活は、自然と共生していました。縄文時代の生活は、自然と共生していました。縄文時代の生活は、自然と共生していました。






縄文☆地底新聞

縄文の森に行きました。縄文の森に行くと、縄文時代の生活が感じられます。縄文時代の生活は、自然と共生していました。縄文時代の生活は、自然と共生していました。縄文時代の生活は、自然と共生していました。




富沢新聞

富沢新聞の地下の選球。富沢新聞の地下の選球。富沢新聞の地下の選球。富沢新聞の地下の選球。富沢新聞の地下の選球。

